

# 地域包括支援センター 元気はつらつ講演会開催

平成25年12月9日、地域包括支援センター主催による元気はつらつ講演会を開催し、約100名の方が参加しました。講師に旭川医科大学病院耳鼻咽喉科医員の大高隆輝氏を迎え、『加齢とみみ、はな、のど』をテーマに講演が行われました。今回、講演会の内容にあった「耳」に関しての内容をご紹介します。



## 難聴の種類

難聴の種類には、伝音性難聴と感音性難聴があります。

### ● 伝音性難聴

音を伝える器官（外耳と鼓膜及び中耳）の障害による難聴です。

### ● 感音性難聴

内耳と聴神経の部分の障害、例えば神経性の難聴です。

## 難聴を引き起こす病気

難聴を引き起こす病気がいくつもあります。

### ● 滲出（しんしゅつ）性中耳炎

中耳に液体が貯留した結果、難聴、耳閉感、耳鳴および自分の声が耳に響くなどの症状が起こります。  
治療：服薬、鼓膜切開等

### ● 慢性中耳炎

鼓膜に穴が開いたり、鼓膜や中耳が硬くなり難聴が起こります。  
治療：鼓膜形成術等

### ● 真珠腫性中耳炎

真珠のようなもの（上皮組織）が骨を溶かしながら大きくなり難聴

などの症状を起こします。場合によっては、髄膜炎・脳炎を引き起こすこともある恐ろしい病気です。

治療：真珠腫がある部分をていねいに清掃。抗生剤の点耳や内服、鼓室（こしつ）形成術を行います。

### ● 耳垢栓塞（じこうせんそく）

耳垢腺・皮脂腺の分泌物などが固まって外耳道を閉塞する。  
治療：耳あかを除去します。

## 上手につきあいたい加齢性難聴

難聴は、これらの病気が原因としておこるだけでなく、加齢に伴う身体の変化として現れることがあります。

しかし、聞こえが悪いと、家族・周囲の人とのコミュニケーション障害がおこり、気分がふさがちになったり、社会との関わりが減り、生活の質が低下します。  
歳のせいだからとあきらめず、病院受診し難聴の原因を知ることから始めましょう。

## 補聴器について

加齢性難聴は、治すことはできないので、治療として補聴器を用いて低下した聴力を補います。補聴器は様々な種類があり、機能が最新の物

を買ったら良いというわけではありません。まず耳鼻科を受診し、相談しましょう。

## 補聴器の種類

種類	特徴	価格の目安
箱型 	スイッチが大きく扱いやすい	3万～8万円
耳かけ型 	高機能で比較的目立たない	5万円～35万円
耳穴型 	目立たない音質が自然	7万円～40万円

## 購入後のメンテナンスも忘れずに

補聴器を購入したままだという方はいませんか。定期的に購入店・耳鼻科医にて再調整を受けることが重要です。合わないから『着けない』のではなく、自分に合うよう適宜調整・相談していきましょう。

剣淵町地域包括支援センター